

私たちは、市内各地区で活動する人権教育推進委員です。

推進委員の研修の中で「アフリカの国について、あまりにも知らないことが多く、外国人と同じ町に住むことが不安だ」という意見が出ました。そこで、交流会を開き、出身国のことや、日本に来て思っていることを教えてもらうことにしました。

アフリカ系外国人との交流会

野村町在住のセネガルとウガンダ出身の4人に来ていただき、西脇市茜が丘複合施設みらいえで交流会を行いました。野村町住民の方にも来ていただき、楽しい時間を過ごしました。

Q セネガルとウガンダはどのような国ですか？

私たちの国は、暑い所だけでなく寒い所もあります。セネガルの言葉は、フランス語とウォロフ語です。国技は相撲ですが、人気があるのはサッカーです。ウガンダの言葉はフランス語と英語で、ラグビーが盛んです。主食は、米を食べます。日本の米はアフリカの米よりも粘りがあり、とてもおいしいです。

Q 日本の生活はどうですか？

文化や生活など全てが違いました。初めはとても戸惑いましたが、今は集団で生活しているので、困ることはありません。日本の冬は寒くてびっくりしました。私たちの国の多くはイスラム教徒です。日本に来てハラル食品(*1)をネットや市内のスーパーで買うことができます。西脇市のいろいろなお店にもよく行きます。日本の食事はおいしくて、特にラーメンが好きです。

*1) イスラム教の教えに添って食べることが許されている食品や料理のこと。反対に「ハラム」として食べることが禁じられている食品があります。例えば、豚肉、アルコール、豚肉やアルコール由来の調味料など。

参加された方々の感想



NPO法人 みなみ会
理事 川崎 佳子さん

とてもフレンドリーで親しみやすい人たちでした。日本語を覚えたいという気持ちをもっていることが分かり、これから自分に何ができるか考えていきたいです。



野村町まちづくり推進協議会
会長 前原 義継さん

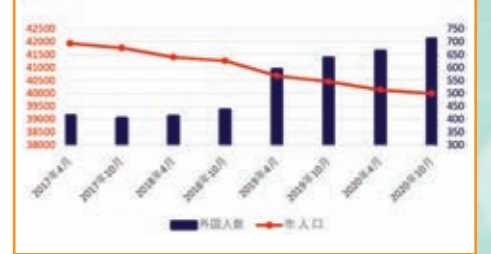
言葉の壁はありましたが、彼らが日本での生活に安心感をもっていることや、まじめに生きていることなどを知ることができ、よかったです。これから、彼らと住民の親睦を図るような行事を開催できないか考えていきたいです。「しばざくら通りの夏祭り」に参加を呼びかけてはどうかと思っています。

私たちが学習を通して気づいたことを皆さんに発信します。



西脇市在住の外国人数
32か国663人。(2021.3.1)
近年、アフリカ系外国人の方が大幅に増えています。

西脇市における在住外国人数の推移



Q 西脇市に来て困っていることやしてみたいことはありますか？

日本はとても安全な国で自由の国です。だから、日本にきました。皆さんとても優しいです。西脇市の人たちと交流したいです。でも、日本語が勉強できる場所がありません。働きながら勉強できる場所が欲しいです。

サッカーが好きで、宿舍の仲間とチームを組んでプレイしています。西脇市の人と一緒にサッカーがしたいです。一緒にできるチームはありませんか？

大陸別西脇市在住外国人(2020.10)



セネガルの挨拶は、左の胸に右手を置いて「アッサラマレイクン」と言います。「あなたに幸福あれ」という意味で「こんにちは」と同じように使います。

まずは一步、こちらから歩み寄ってみましょう！

参加して下さった方がとても気さくであまりの屈託のなさにすぐに打ち解けることができました。西脇市の人とサッカーをしたい、もっと交流したいという願いがあるとわかりましたが、私たち西脇市民はどうでしょう。肌や髪などの外見、言葉の壁など自分と違うことに戸惑い、どう接したらいいかわからず、不安な気持ちになったことはないですか。その不安をなくす1番の方法は、実際に出会い、お互いのことについて話す行動力だと今回の交流会で改めて気づかされました。先入観を捨て、素直な気持ちで接することで心はつながります。互いの違いを知り、認めていくことで幅広い交流関係を築いていけると感じました。

幸せに暮らしたいという思いは、国籍にかかわらずみんな同じです。帰国しても「日本が、西脇市が好き。」という気持ちを変わずに持ち続けてほしいです。また持ち続けられるような市にしていきたいですね。